

考察

- 聞き手目当てのモダリティがある言語にひとりごとが可能になる。
- ひとりごとの可能な言語に聞き手目当てのモダリティが発生する。
- どちらか。
- 後者の場合、聞き手を意識するかどうかだけを示すだけでいいので、聞き手目当てのモダリティの細かい区別は必要ない。

考察

- 対話が無標で、独話が有標であると考えられる。
- ところが、独話は独自の言語表現を持たず、対話のほう聞き手目当てのモダリティを持つ。
- 英語以外のゲルマン語では聞き手目当ての modal particles があるにもかかわらず、ひとりごとがない。

Modal particles in Swedish

- スウェーデン語はドイツ語などのようにmodal particlesを持つが、基本的にひとりごとと言わない。
- ひとりごとを言わない言語は聞き手目当てのモダリティを持たないということはいえない。
- 可能性としてはゲルマン語のmodal particlesはかなり強く聞き手を意識したものである。
- 常に聞き手を意識する言語ではひとりごとが可能になる。←聞き手目当てのモダリティが常に現れる言語では聞き手モダリティのモダリティを落とすことによって、ひとりごとであることが明らかになる。